

令和6年度第3回京都府子どもの貧困対策検討会（議事録）

日時 令和6年11月1日（金）9：30～11：30

場所 京都経済センター3階 3－F

参加者 別添のとおり

内容 以下のとおり

1 開会あいさつ

<東江副部長>

本日中間案を議論できればと思います。この間実施した子ども・若者ヒアリングについても結果概要をご報告できればと思うので、忌憚のないご意見をいただければありがたい。

2 子ども・若者ヒアリングの結果報告について

・資料2－1に基づき、福阪参事より説明

○主な意見

<小沢座長>

スクールカウンセラーと一度ずつ相談する機会があると意見があったが、全ての学校で実施されているというわけではないのか。

<教育監>

全学校で週に1回はスクールカウンセラーが配置されることになっている。

大規模校では全員が相談機会を設けることは難しいが、小規模な学校では、全員が相談を受ける機会を設けているところもある。

<石崎委員>

ヒアリングを実施した当事者の抽出方法の根拠は。

<参事>

困難を抱えている家庭の子ども・若者が中心。ヒアリングの場に出てくることに抵抗がある場合は、つながりのある委員や支援者の方を通じて依頼した。年代としては積極的に発言できる20代が中心となった。

<石崎委員>

声をあげてくれる子どもは良いが、声をあげられない方の意見を吸い上げることに日々苦勞しているので伺ったところ。

<流石委員>

子どもであっても守秘義務を守ってプライバシーに配慮することは、相談対応する者の質に関わる部分で、例えばDV関係では、児童扶養手当の手続きで居場所が漏れてしまい、施設を変えないといけないケースがあったりもするので、しっかりと対策をする必要がある。

<神村委員>

ケースワーカーが相談の入り口になることが大事だとあるが、私の場合、学校の先生から行政制度の活用を案内してもらったことで、ケースワーカーとつながり、そのケースワーカーが家庭事情をよく理解し、自立に向けて伴走支援をしてくれたが、世帯主に会うことが難しい場合にどうアプローチするかは課題。困難を抱えている家庭の方で自分の頑張りをなぜわかってくれないのかと周りに話す人もいるが、かえってそういう方は自分から行政へ相談にはいかない。求められていないところに外部から入っていくことは難しいと思うが、困難な家庭へのケースワーカーの介入の仕方について、具体的な取り組みができるとよい。

<中井委員>

ありのままでいいと声をかけられたことへの意見。就労支援の現場にいるが、相談者の方の中に、人の顔をうかがう性格の方がいて、先輩とのコミュニケーションがうまくいかず離職されてしまった方がいた。その後、その方が恩師の方にたまたま出会い、ありのままの自分で良いと言われたことがきっかけで、イベントの際に一人で屋台を出して、調理から接客もすべて1人でやったことで自信になり、再び就職につながったケースがあった。誰かの一言というのはとても大きい。

<参事>

様々な意見があり、一定評価いただいている部分と今後改善が必要な部分があったと思う。個人情報の件も大事であるし、声をあげられない方の意見の拾いあげも重要だと思う。

<小沢座長>

支援者も苦労やストレスを抱えており、支援者へのサポートや働きかけも大事であるし、個人情報の管理についてもしっかりとする必要がある。

3 中間案について

- ・福阪参事より資料2-2に基づき、中間案について説明

○主な意見

<小沢座長>

流石委員から「非行」という表現について他の表現に検討を求める意見があったが、ご提案の「社会的不適応」という言葉にすると、かえって抽象的な表現になる部分もある。

<流石委員>

「非行」に陥る子どもというのは、家庭に問題にあることが多く、社会で生きづらい人が非行につながってしまうという思いがある。児童養護施設に入所して生活習慣を整え、環境をよくすると改善すると聞いたことがある。ただ、計画の記載として一般的な表現にしてもらうことは差し支えない。

<柏木委員>

社会の構造に問題があり、非行につながる部分はある。課題を抱える子どもについては、順番の根拠がよく分からない。虐待と社会的養護は同じ項目にしないで良いのかや、ヤングケアラーという個別事象を入れるのであれば、外国ルーツの方は入れなくて良いのかなど項目設定にも検討課題はある。例えば「多様な困難を抱える子ども」という項目をつくり、その中で非行についても触れるという方法もある。

<山内委員>

外国にルーツのある子どもは、子ども食堂にも多く参加しており、高学年になると国語などの教科で学習についていけなくなり学校が楽しくなくなる子がいる。そういった学習のギャップを埋める取り組みが必要。

<柏木委員>

非行に関連して、相手への暴力だけでなく、自分への暴力の問題もある。オーバードーズや性依存など。また、うつ病などの精神疾患や障害を抱える子どももあり、困難を抱える子どもについて総体的に入れてもらえると良い。

<流石委員>

「子ども家庭センター」が具体的に動くためにはハードルがある。相談者への支援だけでなく、その家庭を含めた家庭全体への支援を考えないと対症療法にしかない。家庭全体を見ることができる司令塔がいるような支援体制が重要。

<五石委員>

計画全体はよくできていると思う。主にひきこもりに関連してだが、3ページに社会適応訓練という言葉があるが、本人の問題だけではない。例えばの提案だが、個別課題の部分については、補助事業に対応した記述になっているが、「教育機会確保法」に対応した書き方ができないかと思う。ひきこもりに関しては6ページに体験の機会を確保す

るなど興味深いものもあるが、「学校教育に頼らない多様な教育の機会、体験の場を確保」という記載をどこかに入れると体系的な記載になるのでは。

<小沢座長>

「子ども・若者の健やかな成長の原点」とあるが、表現として少し気になった。

<福阪参事>

子ども大綱の表現から引用している。ただ、「原点」という言葉が適切かは検討したい。

<小沢座長>

多様な体験な場の確保は重要だが、「原点」という言葉は言いすぎている部分もあるように思う。その他ここまで出た意見について総括的に事務局の見解はどうか。

<福阪参事>

各委員の意見の趣旨は理解できるものであり、個別課題の記載方法については検討する。

<小沢座長>

社会的不適応という表現だと、個人の側が周りに合わせていけないといけないのか、ということになる。ありのままの自分であることが大事という観点もあるので、記載については検討いただきたい。

<神戸委員>

個別課題のところで、精神疾患を抱える子どもも増えているので、精神医療との連携についても加えてもらいたい。また、経済的支援が子育て家庭への支援に変わっているが、経済的支援は重要な要素なので、計画の記載はこのままでもいいが、例えば学校教育の無償化については、後払いの制度になっているので、国も含めてであるが、制度の改善を検討してもらいたい。

<小沢座長>

「若年者等の早期就業とスキルアップを一貫支援する取組」とあるが、「早期就業」を支援するという表現は気になる。早く働くように働きかけるように見えるとどうなのかと思う。

<福阪参事>

自分の本意ではなく非正規雇用になっている若者が、安定的な正規雇用につながるための取り組みという趣旨との理解。

<杜委員>

府立図書館の本を子どもたちに貸し出す取り組みもしているが、不登校である子どもとつながればつながるほど、最新の制度情報をいかに子どもたちに届けていけるのか課題をもっており、例えばチャット GPT などの活用をしながら、子どもの居場所事業の中

で機材をリースしてもらうなどで、具体的な支援を検討してもらえないかと考えている。

<小沢座長>

「養育費の支援」ではなく「養育費確保の支援」とするように検討いただきたい。

4 今後のスケジュールについて

福阪参事より資料2－5に基づき今後のスケジュールについて説明

<小沢座長>

今後中間案確定まではメールでの確認になり、中間案を議会に報告しパブリックコメントを実施した後に、次の検討会になると思う。その際に見直しを求める意見を出すこともあり得るが、中間案も含めてその際に議論するという理解でよいか。

<東江副部長>

あくまで中間案であり、議会報告やパブリックコメントをした後に修正ができないものではない。次回検討会でより良い計画策定のための意見をいただければ、しっかり反映したいと思っている。

<柏木委員>

学校の中で劣位に置かれ排除されるケースもあるので、学校も学校以外も含めて包摂的な居場所が増えることで、当事者がありのままでいられる居場所が増えて、当事者がそれを選べるような環境になると良い。子どもの意見を聞いていると、先生やSSW、地域の方、同じ立場の仲間など、そういった方に相談すると楽になると意見があり、いろんな相談先を望んでいると感じる。学校自体も学習の場だけでなく、居場所にもなり得るような記載になれば良い。

<東江副部長>

重要なお指摘で、自分の居場所がどこなのかは、一人一人によって違うし、家庭である人もいれば、学校である人もおり、あるいは第3の居場所である人もいる。様々な居場所になりえるところが、地域に多く存在することが大事であるので、そういった視点を基本的な考え方として加えられるように検討したい。

5 閉会挨拶

<村山教育監>

本日は当事者のヒアリング結果や委員へのアンケート結果を踏まえて中間案を見ていただいたが、様々なご知見から意見を頂戴したので、本日のご意見を踏まえて今後も計画の改定を進めて参りたい。